

花虫綱ヤギ目イソバナ科

イソバナ

Melithaea flabellifera Kükenthal, 1908

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

防波堤の建設などで海岸の岩礁域が減少しているほか、排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

【概要】

紅色、朱色、黄色など色の変化に富み、高さ、幅ともに20cmまでの一平面状で、しばしば癒着して網状の扇形の群体を作る。ポリプは枝の両側と上面に配列し、花夾の中に完全に退縮する。日本海側における生息域は、男鹿半島以南から九州南西部の岩礁壁にみられる。

【県内での生息地域・生息環境】

潮の流れがはやい岩礁壁、水深1-10mのところで集団の群生を作って生息している。

【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
○		○	◎																			○

花虫綱イシサンゴ目キサンゴ科

イボヤギ

Tubastraea faulkneri Wells, 1982

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

防波堤の建設、波消ブロックの設置などで海岸の岩礁域が減少しているほか、排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

【概要】

群体は塊状で、1cm前後の円筒形のサンゴ個体が並んでおり、全体の大きさは径10cm以下が多い。褐虫藻を持たないので、岩陰に生息する。群体の色は赤色、橙色、黄色が多い。日本海側における生息域は、本州中部以南に普通に見られ、地域変異が多い種である。

【県内での生息地域・生息環境】

潮の流れの速い外洋の岩礁壁から内湾の岩陰までさまざまな環境に生息しており、水深1-10mに集団で群生している。隠岐諸島では傾斜した岩盤一面に大集団で生息する箇所が見られる。イソバナとよく混生している。

【存続を脅かす原因】

沿岸域の埋め立ておよび生活廃水などの流出による海水の汚濁。漂着ゴミによる生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
○		○	◎																			○

花虫綱イシサンゴ目キサンゴ科

ムツサンゴ

Rhizopsammia minuta mutsuensis Yabe & Eguchi, 1932

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵30

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

防波堤の建設などによる生息域の縮小、港湾浚渫、生活排水の流出によって海水の汚濁が進んできており、減少傾向にあると思われる。

【概要】

群生性に岩礁域で見られ、薄い根様で連結された円筒形の群体を形成しており、共肉および触手とも鮮やかな黄色をしている。比較的浅い海域の平坦部で見られることもあり、海藻であるホンダワラ類が生育する仮根周辺にも生育している。陸奥湾が基準標本産地で、日本海側

における生息域は若狭湾以北の日本海沿岸に生息する北方種であるが、隠岐諸島海域にも生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では潮の流れの速い岩礁壁で水深5-10mのところに群生しているが、生息地は限局している。

【存続を脅かす原因】

沿岸域の堤防の設置や埋め立てなどの漁港の整備・拡張に伴う生息環境の破壊が懸念される。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	海中
			◎																			○

サンゴ類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

サンゴ類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足